

浜を企業に売り渡す 漁業法改悪許せない

参院農林水産委員会 見を交わしました。

で9時間に満たない審議で安倍内閣・与党が8日未明に強行した漁業法改悪。日本共産党の畠山和也前衆院議員(参院北海道選挙区候補)は、浜を企業の食い物にする悪法は断じて許せないと、北海道渡島管内の函館市漁協(3日)、上磯郡漁協(5日)を訪問し、意見

クロマグロは1本で終わり

「クロマグロの配分は30時、1本取ったら終わり。漁師は生活していけない」

函館市漁協の渡部保光専務は漁獲規制(TAC)制度への憤りをあらわにしました。

「すでに(漁協組合員として)2企業が参入している。漁場調整は、漁民と漁協がやってきた」と漁業権の優先順位廃止の改悪に疑

北海道
渡島管内

先順位廃止の改悪に疑

畠山氏・本間道議候補ら 2漁協幹部と懇談

問を呈しました。

渡部氏は「漁場を守るため、漁民と漁協は投資もしてきた」と語り、主力魚種のイカなどの資源回復、高騰する漁業燃油への助成を求めました。

上磯郡漁協では、三上珠樹専務が応対しました。漁業法の審議について、「漁業者が有効利用している漁場は現行通り優先免許されるところ以外、聞いていない」と指摘。漁協への説明不足と、「適切かつ有効な活

用」がされない漁場への企業参入促進の意図が透けて見えます。三上氏は「頑張って

いる漁業者の所得を上げていくことが後継者対策につながる」と強調。ウニやアワビ、コンブ、ワカメなどの養殖漁業に力を入れていると紹介しました。

現場が求める
支援優先こそ

両漁協との懇談で、「漁業関係者の十分な理解がない中で、浜を企業に売り渡す漁業法改悪は許されません」と畠山氏。「官邸と規制改革会議主導の『上からの改革』でなく、現場が求める経営の安定や資源回復のための支援が優先されるよう日本共産党も頑張ります」と応じました。訪問には、本間勝美道議候補と小野寺真江差町議、相澤巧木古内町議、花井泰子知内町議が同行しました。



懇談する(右から)三上専務と畠山氏ら5日、北海道知内町